

カリキュラム区分		4カリ		シラバス区分		学部生		
科目区分	科目コード	履修時期		開講学科	選択区分	科目名（上段：和名、下段：英名）	時間	単位
		学年	学期					
専門科目	237	2年	後期	看護学科	必修	在宅看護対象論 Home Care Nursing	15	1
担当教員								
窪田 静								
関連するDPキーワード（看護学科）								
<input type="radio"/>	① 幅広い視野と豊かな感性を身につけ、人々の権利や意思を尊重した倫理的な看護が実践できる。							
<input type="radio"/>	② 他者との関係性を成立・発展させるためのコミュニケーション能力を身につけている。							
<input type="radio"/>	③ 地域で生活する複雑・多様な対象を、専門的知識に基づき総合的に理解するための基礎的能力を身につけている。							
	④ 看護の対象が、その人らしく生きられるように、科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を身につけている。							
	⑤ 地域社会及び保健・医療・福祉分野における多職種と連携・協働し、看護職の役割を拡大できる基礎的能力を身につけている。							
	⑥ 看護専門職として、主体的・創造的に継続学習に取り組む能力を身につけている。							
	⑦ グローバルな視点で看護実践を科学的に探究し、看護を発展させる基礎的能力を身につけている。							
関連するDPキーワード（臨床検査学科）								
	① 幅広い知識・教養をもとに、医学検査の対象となる人を総合的に理解し、その人の権利や意思を尊重することができる。							
	② 医学的に必要な専門知識・技術を備え、検査データを総合的に解析する力を身につけている。							
	③ 多職種間で連携・協働しながら医学検査の専門家として貢献できる力を身につけている。							
	④ 医学検査とそれぞれに関連した幅広い分野の発展・向上のために、自らの能力を高める自己教育力を身につけている。							
	⑤ 科学的思考力に基づき、医学検査の進歩・発展に対応できる学究的態度を身につけている。							
	⑥ 医学検査を通して、社会の多様性に合わせた貢献ができる基礎的能力を身につけている。							
授業目的								
在宅看護が必要な背景を理解し、自宅をはじめとする様々な療養の場で生活する在宅療養者を、長い時間軸の中でとらえることができるよう学ぶ。また在宅療養者はどのような健康上のニーズや生活上の困難を持ち、家族や専門職にどのように支えられ、変容するかを学ぶ。								
到達目標（授業目標）								
多様な在宅療養者とその暮らしをイメージし、説明することができる。								
回	授業計画（項目・内容与方法・担当者）							
1回	在宅看護対象論のガイダンス、在宅看護概論：在宅看護を学ぶ背景・方法・目的、在宅ケアで特徴的なケアの総合状態：ニーズ発見・ディマンズ育成から導かれる在宅療養者と生活の質の変容、病院の看護との違い（窪田静）							
2回	医療依存度の高い在宅療養者の生命・生活・人生：在宅人工呼吸器療法を行いながら社会資源を開発して生きる筋萎縮性側索硬化症（ALS）を持つ在宅療養者（窪田静）							
3回	社会福祉に支えられて生活する在宅療養者：相談支援専門員、医療的ケア児、地域生活支援、社会福祉の対象領域と看護・教育との協働、難病患者との関わり、合理的配慮と環境整備、エンパワメントの視点（教育協力者）							
4回	様々な社会資源に支えられて生活する在宅療養者：障害者総合支援法に基づく福祉サービス、様々な福祉サービスを活用する相談支援、ノーマライゼーションの理念、国際生活機能分類と構造モデル、障害者権利条約と医学モデル（窪田静）							
5回	高度な医療を必要とする在宅療養者：在宅酸素療法、在宅人工呼吸器療法（窪田静）							
6回	高度な医療を必要とする在宅療養者：在宅中心静脈栄養法、在宅腹膜透析（窪田静）							
7回	生活環境と在宅療養者：見取り図の読み取り方と描き方、見取り図を活用するアセスメントとプランニング、感染予防と環境（窪田静）							
8回	様々な社会資源に支えられる在宅療養者：在宅療養者像の総合的な理解（窪田静）							
9回								

10回	
11回	
12回	
13回	
14回	
15回	
16回	
17回	
18回	
19回	
20回	
21回	
22回	
23回	
24回	
25回	
26回	
27回	
28回	
29回	
30回	

成績評価方法及び基準

課題を含む授業への参加・取り組み(50%) レポートと筆記試験(50%)。トータル60点以上を合格とする。

教科書	臺有柱 編集(2023) 地域・在宅看護論① 在宅療養を支えるケア (メディカ出版) 臺有柱 編集(2023) 地域・在宅看護論② 在宅療養を支える技術 (メディカ出版) 窪田静 (2019) 「楽に動ける福祉用具の使い方」 (看護協会出版会);1年次に生活援助技術論で使用したもの
参考図書等	山田雅子編集 (2014) 映像で感じ、考える、これからの在宅看護論全5巻 (東京サウンドプロダクション) 石田千絵編集ライフヒストリーVol.02 筋萎縮性側索硬化症岡部宏生さんの場合 (医学映像教育センター)

授業時間外の学習について (授業準備のための指示)

教科書の指定箇所の読了や動画視聴を行い、指示された課題を遂行する。

関連科目

前科目	204	生活援助技術論Ⅰ	163	リハビリテーション	166	社会保障制度論 (共)	167	保健医療福祉行政論		
後科目	238	在宅看護方法論	239	在宅看護論実習	242	看護アセスメントⅢ				

実務家教員

看護師 (医療機関)	窪田 静								

備考

--	--